

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年1月15日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3893200034
事業所名	グループホームさくらや
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏 名	森崎 阿里
自己評価作成日	平成30年12月1日

【事業所理念】 我が家のようにゆったりほっこり	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 介護サービス計画に個別モニタリングを反映させることを取り組み始めているがまだ充分とはいえない。 外出機会に関しては重度者でもお散歩や外気浴ができるよう意識して行い、改善がみられてきている。 リハビリパンツ等の導入に関してはスタッフ、当事者、家族と相談して行えるようになってきた。 買い物機会については取り組もうとしているが、なかなか実行まで結びつかないので引き続きの課題である。 流行性の疾患に対する対策はしっかりとできており、今のところ利用者の健康状態はとても良い。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 島に1つしかない貴重な事業所である。地域の来所者、応援者、協力者も多い。利用者はほとんど上島町の住人で家族もよく来所してくれる。目の前にある池の動物や植物は一年を通して利用者の目や心を癒してくれる。海も近く散歩に出かけた際には、保育園児や近所の人たちとあいさつを交わしている。職員は、利用者の日々の生活をしっかり見守り、丁寧に観察し、管理者に伝え職員間で共有している。ブログ、申し送りノートを手順通りに使いこなしているところは、他の事業所では見られない特徴である。利用者の笑顔と職員の笑顔が重なり、「我が家のように、ゆったり、ほっこり」している。
----------------------------	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	個々の生活歴や習慣を家族から聞き取り、やりたいこと、できることを常日頃から観察している。	○		○	職員は利用者の日々の生活をよく観察し見守っている。その中で得られた利用者の希望や意向は職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員によっては利用者主体ではない考え方をしてしまうことがあるが、それに気づいた時には周りが修正している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	比較的、家族の面会が多く、面会の際には普段の様子を伝えるようにしている。その中で「本人の思い」についても話し合っている。わざわざ電話をかけることはあまりしない。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	毎日、申し送ノートをつけている。個人記録も変わったことがあったときは必ず書き込むようにしているし、全て、職員が自由に見れる状態に整えてある。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	毎朝、申し送りで利用者さんについてミニカンファレンスを実施している。その中で職員同士でケアの方向性を確認している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	計画作成の時には家族から毎回聞き取りを行っている。また、日々の生活のなかでトラブルや不穏が続く場合は原因を探るためにご家族に生活歴などを再度聞き取ることもある。			○	入居以前の利用者の生活環境やこだわりにしてきたこと等を家族等から聞き取るようにしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	毎朝の申し送りで利用者の様子や状態の共有をしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	毎月のミーティング、毎朝の申し送りで不穏や不安の原因について職員間で話し合っている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎月のミーティング、毎朝の申し送りで不穏や不安の原因について職員間で話し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間でよく会話しており、情報共有が図れている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	月に一度のミーティングで課題や支援の方向などを話し合っている。家族の意向なども共有している。			○	月1回のミーティングで利用者や家族の意向等をもとに、利用者の視点で話し合い検討するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	月に一度のミーティングで課題や支援の方向などを話し合っている。家族の意向なども共有している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	月に一度のミーティングで課題や支援の方向などを話し合っている。家族の意向なども共有している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常の会話などから本人の思いを拾い、申し送りなどで情報共有しており、それを計画に反映させている。	/	/	/	日常会話から利用者の思いを察し、職員間で情報を共有し介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日常の会話などから本人の思いを拾い、申し送りなどで情報共有しており、それを計画に反映させている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の思いを優先し、ケアは同意を得て行うことを基本としている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制を計画に盛り込めていない。家族の協力は盛り込めている場合もある。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	それぞれの計画を自由に職員が閲覧できるようにしているが、全職員が把握はしていない。	/	/	△	利用者一人ひとりの介護計画を閲覧できるようになっているが、把握していない職員もいるため、職員全員で共有するよう努めて欲しい。毎日の記録に基づき目標の達成度を評価し、申し送り等により共有し日々の支援に活かしている。利用者一人ひとりの言葉や表情等日々の暮らしの様子について記録している。利用者同士の関係や心の動き、職員の気づき等、特筆すべき事項について個別に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日サービス記録をつけており、目標の達成度を評価している。問題がある場合は申し送りなどで協議している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別のサービス記録をつけている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個々に特筆すべき事や提案を書く欄を設けており、記録している。	/	/	○	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6ヶ月に1回は必ず見直しを実施している。	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直している。毎月モニタリングで利用者の状況を確認し、利用者一人ひとりの評価を行っている。利用者の状態に大きな変化が生じた場合、現状に即した計画の見直しまでには至っていないため、今後は取り組むよう努めて欲しい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、それぞれの利用者のモニタリングを計画作成者、管理者、看護師が実施している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	6ヶ月という期間にかかわらず、変化が生じたら計画を変更しているが、概ね6ヶ月で見直しになっている。	/	/	△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	月に一度のミーティングでそれぞれの課題について検討している。緊急の場合は管理者と計画作成者や管理者と看護師など個々で検討し、情報共有して対策を講じている。	/	/	△	毎月定期的にミーティングで課題等について検討しているが、緊急の場合職員間での話し合いが不十分なため、今後の取組みが望まれる。会議等に参加できない職員には、会議録を回覧し共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職種にかかわらずいろいろな意見を率直に出している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	なるべく多くの職員が参加できる曜日や時間を設定している。常勤の会議の後にパート職員の会議をし、その時間は常勤がパートの代わりに勤務についている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ミーティング記録の閲覧を実施している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノート、申し送りを職員でやりやすいように改善しながら実施している。	/	/	◎	申し送りノートを使用する等工夫し、職員全員が共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	前日の申し送りノートの内容をグループラインで共有している。	◎	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	他の人の生活や本人の健康、家族の意向に反しない限りは利用者の希望を叶えるようにしている。	/	/	/	利用者に飲み物を選んでもらったり、どんな遊びをしたいかなど、自分で選んでもらう機会を提供している。職員は常に利用者の気持ちを観察し、寄り添っていく中で利用者に喜んでもらう方法を共有し、利用者を尊重しながら気持ちが盛り上がるよう雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	どうしたいかを確認するよう心がけている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の意向を大切にする支援を心がけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	できる範囲、可能な限り、それぞれの生活に合わせた支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	どの利用者も楽しそうに過ごしている。なるべく活動的に過ごせるように工夫して支援している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	利用者を観察して支援するよう心がけている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修も実施しているし、OJTでも注意をしている。	○	◎	○	職員全員を対象に人権や尊厳の研修等を行い、利用者の誇り等を尊重した声かけに努めている。耳の遠い利用者も含め、近くに寄り低めの声でゆっくり話すなど、配慮した支援に努めている。居室に入る際は、必ず声かけし理由を告げてから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者の気持ちに配慮した言葉がけをするように職員同士で注意している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	気をつけるようにしているが、できていない職員もいる。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	配慮しながら行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	意識の徹底を図っているが意識の低い職員もいる。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	職員から利用者に「ありがとう」という言葉をかけている場面をよく見かける。	/	/	/	利用者同士の意見の食い違いがある時は、リーダー的な利用者がフォローに徹するなど、良い関係が築けている。不穏な雰囲気になりそうな場面では、職員が仲介し場が和むこともある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解しており、そうなるような支援をしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	なるべく、仲の良い利用者、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるように支援しているが、それぞれの座りたい席などのこだわりがあるのでトラブルが起こることもある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	そのような支援ができています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	スタッフも利用者も地元の人であることが多いので概ね把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	個別に話をきいたりして、把握した情報はスタッフ同士で共有するようにしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	有人や兄弟が参加する地域イベントなどに参加できる支援をしているが、会うことで不穏になることもあるので、意図的に参加を避ける場合もある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	よく、いろんな方が面会にいらっしゃる。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	◎	天候が良い日は散歩にでかけようようにしている。本人の意向は尊重するが、なるべく戸外に出られるように声をかけている。	◎	◎	○	利用者の体調や天候を考慮しつつ、できる限り戸外に出て散歩するよう努めている。重度の利用者は外出する機会があまりないので、散歩に出かけるなど気分転換を図るよう努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	外出機会にはいろいろな人に助けてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天候が良く、利用者の調子がよければ戸外に連れ出すこともあるが、なかなか実施できる機会はない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	そのような取り組みはしていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	職員による力量の差が大きい。	/	/	/	畑で野菜を作り収穫したり、しめ縄づくりにも挑戦するなど、利用者が取り組んでいることを、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	職員対象で、月に一度、認知症についての研修をしているが、理解が十分ではない。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	なるべくそうできるようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の得意なこと、できることをする場面がつかれるように心がけている。	/	/	/	食事前のテーブル拭きや食後の皿洗い、洗濯物たたみなど、それぞれ役割や出番をつくるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	本人の得意なこと、できることをする場面がつかれるように心がけている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	小学校の図書室の本の埃を払うボランティアに参加している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好きな服を着てもらったり、身だしなみに配慮するよう心がけている。				食事の食べこぼしや服装の乱れ等は、さりげなく声かけしカバーするよう支援に努めている。重度の利用者も含め、清潔感のある身だしなみを保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	美容室に行きたい方は美容室にお連れしたり、室内に好きな物を持ち込んでもらえるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	発話が難しかったとしても同意を得る声掛けはするようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	敬老会など外出の際にはネイルをしたりお化粧をしたりするお手伝いをしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けに配慮し、カバーしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人に希望があれば、島内に限るが美容室に連れて行くようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしいとまではいかないが、清潔で身だしなみが整っている状態であるように心がけている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	自分の力とベースで食べていただくことを大事にしている。				管理栄養士が中心となり献立を作成している。調理の下ごしらえや配膳、後片付け等は利用者と一緒にやっている。しょうがご飯やさつま汁など昔懐かしいものをメニューに取り入れている。食器は利用者に合わせ使い勝手のいいものを使用している。調査日には、管理者自ら利用者と一緒に楽しく食事している様子を窺うことができた。利用者は日中共用空間で過ごしているので、調理の音や匂い等の雰囲気を感じることができる。施設長と管理者が栄養士で、利用者の栄養面に配慮した献立を作成しているほか、定期的に栄養バランス面について話し合い見直しを含め検討している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物や献立は栄養士が担当しているが、下ごしらえや配膳、片付けなどは利用者も参加している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買い物や献立は栄養士が担当しているが、下ごしらえや配膳、片付けなどは利用者も参加している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	把握しているが、アレルギー、禁忌食品以外で献立の配慮はしていない。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節に合わせて献立を変えている。食べやすいものをなるべく出すようにはしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	食べにくい人には小さなおにぎりを作ったり、ふりかけをかけたりと食べられる工夫をしている。食形態はなるべく常食を食べられるように支援している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者の希望で施設で用意した食器を皆が使用している。利用者にあわせて食器を変えている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	そのようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	利用者の体調に合わせるが、できる限り、全員食卓について食事をしてもらうようにしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	そのようにしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	そのようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	そのようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	そのようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修も実施しているし、そのようなケアをしている。				職員が毎日利用者の口腔内の状況を確認し、清潔が保てるように努めている。また毎月歯科衛生士が口腔内の健康状況について確認し、異常等があれば治療する等支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	一日一回は必ず口腔内のチェックをスタッフが実施しており、月に一度は歯科衛生士がチェックしている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	年に数回研修もしているし、月一で歯科衛生士のチェックと指導を受け、日常の支援に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れが難しい人には横について補助をしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	◎	そのようにしている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。		月に一度の歯科衛生士のチェックで指導があった場合には歯科受診をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	なるべく、自立して排泄ができるように支援しているし、おむつへの移行は慎重に行っている。				トイレでの排泄を基本に支援しているが、おむつやパッド等の使用について、職員間で見直しを含め話し合うほか、家族にも相談しながら、利用者一人ひとりにふさわしい対応に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	概ね理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	概ね把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	家族や職員とよく話し合い、移行するときには本人にも説明して支援している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄が困難な場合、原因が何かを看護師を中心として検討し、対応策を介護職が中心となって実施している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々に合わせた排泄介助をしている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	適切な判断をできにくくなっている利用者が多いので家族と介護職とが相談して適切なパッドや紙パンツの使用方法を選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	そのようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	なるべく薬に頼らない方法をとっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	入浴の順番や長さなどはできる範囲で本人の希望にあわせているが、入浴の曜日は決めている。	◎		△	入浴日を事業所の都合で決めているため、利用者の要望にも応えられるよう臨機応変な対応に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりとスタッフがゆっくりと関われる時間としている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる限り、本人の力で浴槽に入られるように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けのタイミングや介助の人を替えたり、浴室をヒーターで暖めるなどの工夫をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	看護師がバイタルを確認し、入浴の可否を決めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の様子も個々に記録している。				夜間安眠できるよう日中は散歩等の活動を増やすよう工夫する等、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	なるべく日中覚醒しているように支援したり、夜間に眠れるように室内の温度を調整したりして工夫をしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬の使用を検討する前に環境や対応などの要因を探るようにしている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室に自由に戻られるようにしており、和室でも休める環境を作っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	年賀状や暑中見舞いを作って出したり、電話の支援は随時行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状や暑中見舞いを作って出したり、電話の支援は随時行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	耳が遠いこともあり、電話をしたがる利用者はいないが、電話で要件を伝えて欲しいと頼まれれば電話するようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙が届くことがめったにないが、季節の手紙で返事を出すようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	そのようなお願いはしていない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	あまり意識していない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	店がすくないこともあり、そのような機会は日常的にない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	そのような働きかけは行っていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を所持している利用者はいない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所のときにお金の所持については本人、家族と話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	そのようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	そのようにしている。	◎		○	急な通院や買い物等、利用者からの要望があれば応えるよう柔軟な支援に努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	◎	テラスは日中ずっと開放しているし、玄関も寒い季節以外は網戸にしている。	◎	◎	◎	玄関周辺には季節の花を植える等、家庭的で落ち着いており、入りやすい 雰囲気がある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	来客者も居心地が良いというが、ときどき整理整頓が不十分である。	◎	○	○	リビングからは海や山を望むことができ最高の眺めである。室内にはソファ があり、ゆっくりくつろぐことができる。掃除が行き届き清潔感があり、季節 に応じた花や飾りつけを行うなど、季節感が感じられるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	環境整備には配慮しているし、空気清浄機も回しているが、独特の臭いはする。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫 している。	○	なるべくそのように工夫している。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	できる限りの工夫はしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	共用空間から見えないように扉を閉めるよう気をつけている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	居室への荷物の持ち込みの制限はなく、それぞれに好きなモノを持ち込んでもらっている。	◎		○	居室には位牌等大切なものを持ち込んでおり、居心地よく過ごせるように なっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	◎	なるべく、自分の力で出来ることをしてもらい、介助しすぎないように配慮している。			○	居室の入口には干支の表札や名前、写真などを貼り付けたり、トイレもわ かりやすく表示する等、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	◎	不便なく生活できるよう、様子を見ながら工夫している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	好きなときに好きなようにできるようにしている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟) の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等)	◎	何度も鍵の施錠については家族や運営推進会議、スタッフ間で協議している。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害について理解し共有しており、玄関は施錠さ れておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	何度も鍵の施錠については家族や運営推進会議、スタッフ間で協議している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	近所、地域に対しても外出については説明しているし、理解も得ているが、安全を配慮して今はユ ニットの入り口に施錠をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	月に一回の全体ミーティングで情報として共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	そのようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	そのようにしている。また連携医は相談して必要があればすぐに往診してくれる。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	島という立地条件上、島外への医療機関の受診が常時可能というわけではないが、相談によっては島外の医療機関受診も支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	できる限り、本人、ご家族の希望にそえる形で支援をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	そのようにしている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	地域連携室に情報提供の連絡をするようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	地域連携室に情報提供の連絡をするようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	そのようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職種を限定せず、職員全体で情報を共有するようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	そのような体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	そのようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	特殊な薬については全職員理解しているが、それ以外は薬の目的までは理解していない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	様々な工夫をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	そうになっている。				重度化した場合の対応方針を入居時に家族に説明し、理解してもらっている。終末期のあり方について、家族や医師等を交え話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	そうになっている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	そうになっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	そうになっている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	そうになっている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	△	努力はしているが、十分ではないと感じている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	ミーティングでの注意喚起や定期的な研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作っており、訓練もしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	看護師がしてくれている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に注意している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	そうになっている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	行事にもよく参加してくれるし、面会にもよく来てくれる。				家族が散歩やレクリエーションに参加できるよう案内している。ほぼ毎日ブログを更新したり、写真入りの「さくら便り」を家族に送付するなど、利用者の様子はもちろんのこと、事業所の運営上のことや職員の人事異動等について報告している。家族の面会時には、必ず声かけし気軽に相談できるような雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	◎	そうしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	◎	散歩やレクと一緒に参加している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	毎日ブログを更新し、月に一度、さくらや便りを送っている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	定期的に家族と話をし、その中で家族が知りたいことや不安については話をするようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	△	そのような支援ができるよう努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	◎	さくらや便りで報告している。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	家族会をしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	出来る限りそうしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	出来る限りそうしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	そのようにしてる。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	△	できる限りそうしているがトラブルにつながったケースがある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	そのようにしてる。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	そうになっている。		◎		町内会に入会し、あいさつは日常的に交わしている。地域の秋祭りに多肉植物や俳句、折り紙等の作品を出展し毎年の恒例となっている等、地域とは深いつながりができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	◎	そうになっている。		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	散歩で声をかけてくれたり、ボランティアに来てくれる人が増えている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	◎	そうになっている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	できている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	◎	近隣の住民やボランティアがさくらやで行事をしてくれたり、サロンへの参加の支援を手伝ってくれる。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	そうできるように努力している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	そうできるように努力している。				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回利用者家族や地域の方など関わりのある方が参加してくれている。	○		○	運営推進会議には利用者や家族、地域の方、町関係者の参加がある。会議では利用者の生活の様子やサービスの実際を報告するほか、評価の取り組み状況等についても報告している。会議での参加者からの意見等は、今後の運営に活かせるよう話し合いサービス向上につなげている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	◎	報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出された意見は迅速に取り入れ、その結果を次回の会議で報告するようにしている。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	1か月前にメンバーに連絡し日程調整している。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	請求があれば公表できるが、だれでもいつでも見れるようにはしていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	そのようにほとんどの職員が取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	機会があれば伝えるようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	そのようにしている。				代表者は事業所をよく訪れ、職員一人ひとりの事情を把握しており、意見や要望を取り入れてくれるほか、職員が働きやすいようシフトにも配慮する等ストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	その仕組みを作っているところである。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	そのように努力している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	そのように取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	そのように取り組んでいる。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修などを実施して教育している。				不適切なケアを発見した時は管理者に伝え、管理者が対処する等、対応方法や手順等について理解し共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りやミーティングの機会に実施している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士で注意しながらサービスの提供を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	そのように努めている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	研修もしているし、OJTでも教育しているが職員間で理解度の差がある。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	ミーティングや研修で話し合う機会を設けているが充分とはいえない。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族会や運営推進会議では毎回話し合うようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	不十分である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	不十分である。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	△	不十分である。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	そのようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	そのようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	そのようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	そのようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	十分ではない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	そのようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	そのようにしている。			○	利用者からは日々の生活の中で意向や要望等を汲み取っている。家族からは面会時や電話により意見や要望等を聞き取っている。職員の意見は大切な宝物として捉えて運営に活かす等、管理者は日頃職員から貴重な意見等を聞けており、利用者本位のケアにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	そのようにしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	必要に応じて困り事などを家族からききとるようにしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	そのようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	そのようにしている。			○	

愛媛県グループホームさくらや

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	管理者のみが取り組んでいるが、職員全体におろしていきたいと思っている。				運営推進会議において外部評価の結果や目標達成計画について報告しているが、家族等参加者に具体的にアドバイスをもらい運営に活かしていないため、モニターを依頼できるくらい事業所の取組みを理解してもらえるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	研修や仕組みの改革に活かそうとしているが、まだ不十分である。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	結果が届くまでに時間がかなりあり、結果を踏まえた目標を立てることがうまくできなかった。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	結果が届くまでに時間がかなりあり、結果を踏まえた目標を立てることがうまくできなかった。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	結果が届くまでに時間がかなりあり、結果を踏まえた目標を立てることがうまくできなかった。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	そのようにしている。				運営推進会議の際に、地域の防災訓練にも参加できるよう連携を図り、地域での合同訓練につなげている。消防署職員にも参加してもらい、災害マニュアルを基に避難訓練を実施しアドバイス等もらっている。町の地震訓練等にも参加する等、地域との連携は取れており緊急災害時の協力体制は構築されている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	そのようにしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	西日本豪雨のときに点検をした。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議や地域の防災訓練の際に地域に協力をお願いしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	そのようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	キャラバンメイト養成講座受講。小学校での認知症についての説明、中学生ボランティアでの認知症についての教育やその成果の中学校への報告などを実施している。				地域の相談拠点である事業所の認知症さくらカフェのPRを実施し、地域住民からの相談にも対応している。運動会や秋祭り等地域行事には積極的に参加している。町社会福祉協議会と連携し、介護予防サロンなど地域イベント等も開催している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	週3回の認知症カフェがその役割をしている。		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	週3回の認知症カフェがその役割をしている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	小学校・中学校の職場体験の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	社会福祉協議会や保健センターと連携している。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年1月15日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3893200034
事業所名	グループホームさくらや
(ユニット名)	わかば
記入者(管理者)	
氏 名	森崎 阿里
自己評価作成日	平成30年12月1日

【事業所理念】 我が家のようにゆったりほっこり	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 介護サービス計画に個別モニタリングを反映させることを取り組み始めているがまだ充分とはいえない。 外出機会に関しては重度者でもお散歩や外気浴ができるよう意識して行い、改善がみられてきている。 リハビリパンツ等の導入に関してはスタッフ、当事者、家族と相談して行えるようになってきた。 買い物機会については地元の服屋さんや訪問の和菓子屋さんを利用して確保することが少しできた。 流行性の疾患に対する対策はしっかりとできており、今のところ利用者の健康状態はとても良い。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 島に1つしかない貴重な事業所である。地域の来所者、応援者、協力者も多い。利用者はほとんど上島町の住人で家族もよく来所してくれる。目の前にある池の動物や植物は一年を通して利用者の目や心を癒してくれる。海も近く散歩に出かけた際には、保育園児や近所の人たちとあいさつを交わしている。職員は、利用者の日々の生活をしっかり見守り、丁寧に観察し、管理者に伝え職員間で共有している。ブログ、申し送りノートを手順通りに使いこなしているところは、他の事業所では見られない特徴である。利用者の笑顔と職員の笑顔が重なり、「我が家のように、ゆったり、ほっこり」している。
----------------------------	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	個々の生活歴や習慣を家族から聞き取り、やりたいこと、できることを常日頃から観察している。	○		○	職員は利用者の日々の生活をよく観察し見守っている。その中で得られた利用者の希望や意向は職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員によっては利用者主体ではない考え方をしてしまうことがあるが、それに気づいた時には周りが修正している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	比較的、家族の面会が多く、面会の際には普段の様子を伝えるようにしている。その中で「本人の思い」についても話し合っている。わざわざ電話をかけることはあまりしない。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	毎日、申し送ノートをつけている。個人記録も変わったことがあったときは必ず書き込むようにしているし、全て、職員が自由に見れる状態に整えてある。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	毎朝、申し送りで利用者さんについてミニカンファレンスを実施している。その中で職員同士でケアの方向性を確認している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	計画作成の時には家族から毎回聞き取りを行っている。また、日々の生活のなかでトラブルや不穏が続く場合は原因を探るためにご家族に生活歴などを再度聞き取ることもある。			○	入居以前の利用者の生活環境やこだわりにしてきたこと等を家族等から聞き取るようにしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	毎朝の申し送りで利用者の様子や状態の共有をしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	毎月のミーティング、毎朝の申し送りで不穏や不安の原因について職員間で話し合っている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	毎月のミーティング、毎朝の申し送りで不穏や不安の原因について職員間で話し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間でよく会話しており、情報共有が図れている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	月に一度のミーティングで課題や支援の方向などを話し合っている。家族の意向なども共有している。			○	月1回のミーティングで利用者や家族の意向等をもとに、利用者の視点で話し合い検討するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	月に一度のミーティングで課題や支援の方向などを話し合っている。家族の意向なども共有している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	月に一度のミーティングで課題や支援の方向などを話し合っている。家族の意向なども共有している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常の会話などから本人の思いを拾い、申し送りなどで情報共有しており、それを計画に反映させている。	/	/	/	日常会話から利用者の思いを察し、職員間で情報を共有し介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日常の会話などから本人の思いを拾い、申し送りなどで情報共有しており、それを計画に反映させている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の思いを優先し、ケアは同意を得て行うことを基本としている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制を計画に盛り込めていない。家族の協力は盛り込めている場合もある。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	それぞれの計画を自由に職員が閲覧できるようにしているが、全職員が把握はしていない。	/	/	△	利用者一人ひとりの介護計画を閲覧できるようになっているが、把握していない職員もいるため、職員全員で共有するよう努めて欲しい。毎日の記録に基づき目標の達成度を評価し、申し送り等により共有し日々の支援に活かしている。利用者一人ひとりの言葉や表情等日々の暮らしの様子について記録している。利用者同士の関係や心の動き、職員の気づき等、特筆すべき事項について個別に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日サービス記録をつけており、目標の達成度を評価している。問題がある場合は申し送りなどで協議している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別のサービス記録をつけている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個々に特筆すべき事や提案を書く欄を設けており、記録している。	/	/	○	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6ヶ月に1回は必ず見直しを実施している。	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直している。毎月モニタリングで利用者の状況を確認し、利用者一人ひとりの評価を行っている。利用者の状態に大きな変化が生じた場合、現状に即した計画の見直しまでには至っていないため、今後は取り組むよう努めて欲しい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、それぞれの利用者のモニタリングを計画作成者、管理者、看護師が実施している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	6ヶ月という期間にかかわらず、変化が生じたら計画を変更しているが、概ね6ヶ月で見直しになっている。	/	/	△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	月に一度のミーティングでそれぞれの課題について検討している。緊急の場合は管理者と計画作成者や管理者と看護師など個々で検討し、情報共有して対策を講じている。	/	/	△	毎月定期的にミーティングで課題等について検討しているが、緊急の場合職員間での話し合いが不十分なため、今後の取組みが望まれる。会議等に参加できない職員には、会議録を回覧し共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職種にかかわらずいろいろな意見を率直に出している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	なるべく多くの職員が参加できる曜日や時間を設定している。常勤の会議の後にパート職員の会議をし、その時間は常勤がパートの代わりに勤務についている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ミーティング記録の閲覧を実施している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノート、申し送りを職員でやりやすいように改善しながら実施している。	/	/	◎	申し送りノートを使用する等工夫し、職員全員が共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	前日の申し送りノートの内容をグループラインで共有している。	◎	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	他の人の生活や本人の健康、家族の意向に反しない限りは利用者の希望を叶えるようにしている。	/	/	/	利用者に飲み物を選んでもらったり、どんな遊びをしたいかなど、自分で選んでもらう機会を提供している。職員は常に利用者の気持ちを観察し、寄り添っていく中で利用者に喜んでもらう方法を共有し、利用者を尊重しながら気持ちが盛り上がるよう雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	どうしたいかを確認するよう心がけている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の意向を大切にする支援を心がけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	できる範囲、可能な限り、それぞれの生活に合わせた支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	どの利用者も楽しそうに過ごしている。なるべく活動的に過ごせるように工夫して支援している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	利用者を観察して支援するよう心がけている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修も実施しているし、OJTでも注意をしている。	○	◎	○	職員全員を対象に人権や尊厳の研修等を行い、利用者の誇り等を尊重した声かけに努めている。耳の遠い利用者も含め、近くに寄り低めの声でゆっくり話すなど、配慮した支援に努めている。居室に入る際は、必ず声かけし理由を告げてから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者の気持ちに配慮した言葉がけをするように職員同士で注意している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	気をつけるようにしているが、できていない職員もいる。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	配慮しながら行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	意識の徹底を図っているが意識の低い職員もいる。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	職員から利用者に「ありがとう」という言葉をかけている場面をよく見かける。	/	/	/	利用者同士の意見の食い違いがある時は、リーダー的な利用者がフォローに徹するなど、良い関係が築けている。不穏な雰囲気になりそうな場面では、職員が仲介し場が和むこともある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解しており、そうなるような支援をしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	なるべく、仲の良い利用者、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるように支援しているが、それぞれの座りたい席などのこだわりがあるのでトラブルが起こることもある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	そのような支援ができています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	スタッフも利用者も地元の人であることが多いので概ね把握できている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	個別に話をきいたりして、把握した情報はスタッフ同士で共有するようにしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	地域の人たちとの関係を持続するために外出機会を大切にしている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	よく、いろんな方が面会にいらっしゃる。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	◎	天候が良い日は散歩にでかけようようにしている。本人の意向は尊重するが、なるべく戸外に出られるように声をかけている。	◎	◎	○	利用者の体調や天候を考慮しつつ、できる限り戸外に出て散歩するよう努めている。重度の利用者は外出する機会があまりないので、散歩に出かけるなど気分転換を図るよう努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	外出機会にはいろいろな人に助けてもらっている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天候が良く、利用者の調子がよければ戸外に連れ出すこともあるが、なかなか実施できる機会はない。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	できるだけ本人の希望に添えるようにしている。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	職員による力量の差が大きい。				畑で野菜を作り収穫したり、しめ縄づくりにも挑戦するなど、利用者が取り組んでいることを、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	職員対象で、月に一度、認知症についての研修をしているが、理解が十分ではない。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	なるべくそうできるようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の得意なこと、できることをする場面がつかれるように心がけている。				食事前のテーブル拭きや食後の皿洗い、洗濯物たたみなど、それぞれ役割や出番をつくるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	本人の得意なこと、できることをする場面がつかれるように心がけている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	小学校の図書室の本の埃を払うボランティアに参加している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好きな服を着てもらったり、身だしなみに配慮するよう心がけている。				食事の食べこぼしや服装の乱れ等は、さりげなく声かけしカバーするよう支援に努めている。重度の利用者も含め、清潔感のある身だしなみを保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	美容室に行きたい方は美容室にお連れしたり、室内に好きな物を持ち込んでもらえるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	発話が難しかったとしても同意を得る声掛けはするようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	敬老会など外出の際にはネイルをしたりお化粧をしたりするお手伝いをしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けに配慮し、カバーしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人に希望があれば、島内に限るが美容室に連れて行くようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしいとまではいかないが、清潔で身だしなみが整っている状態であるように心がけている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	自分の力とベースで食べていただくことを大事にしている。				管理栄養士が中心となり献立を作成している。調理の下ごしらえや配膳、後片付け等は利用者と一緒にやっている。しょうがご飯やさつま汁など昔懐かしいものをメニューに取り入れている。食器は利用者に合わせ使い勝手のいいものを使用している。調査日には、管理者自ら利用者と一緒に楽しく食事している様子を窺うことができた。利用者は日中共用空間で過ごしているので、調理の音や匂い等の雰囲気を感じることができる。施設長と管理者が栄養士で、利用者の栄養面に配慮した献立を作成しているほか、定期的に栄養バランス面について話し合い見直しを含め検討している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物や献立は栄養士が担当しているが、下ごしらえや配膳、片付けなどは利用者も参加している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買い物や献立は栄養士が担当しているが、下ごしらえや配膳、片付けなどは利用者も参加している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	把握しているが、アレルギー、禁忌食品以外で献立の配慮はしていない。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節に合わせて献立を変えている。食べやすいものをなるべく出すようにはしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	食べにくい人には小さなおにぎりを作ったり、ふりかけをかけたりと食べられる工夫をしている。食形態はなるべく常食を食べられるように支援している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者の希望で施設で用意した食器を皆が使用している。利用者にあわせて食器を変えている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	そのようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	利用者の体調に合わせるが、できる限り、全員食卓について食事をしてもらうようにしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	そのようにしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	そのようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	そのようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	そのようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修も実施しているし、そのようなケアをしている。				職員が毎日利用者の口腔内の状況を確認し、清潔が保てるように努めている。また毎月歯科衛生士が口腔内の健康状況について確認し、異常等があれば治療する等支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	一日一回は必ず口腔内のチェックをスタッフが実施しており、月に一度は歯科衛生士がチェックしている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	年に数回研修もしているし、月一で歯科衛生士のチェックと指導を受け、日常の支援に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れが難しい人には横について補助をしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	◎	そのようにしている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	月に一度の歯科衛生士のチェックで指導があった場合には歯科受診をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	なるべく、自立して排泄ができるように支援しているし、おむつへの移行は慎重に行っている。				トイレでの排泄を基本に支援しているが、おむつやパッド等の使用について、職員間で見直しを含め話し合うほか、家族にも相談しながら、利用者一人ひとりにふさわしい対応に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	概ね理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	概ね把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	家族や職員とよく話し合い、移行するときには本人にも説明して支援している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄が困難な場合、原因が何かを看護師を中心として検討し、対応策を介護職が中心となって実施している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々に合わせた排泄介助をしている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	そのようにしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	そのようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	なるべく薬に頼らない方法をとっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	入浴の順番や長さなどはできる範囲で本人の希望にあわせているが、入浴の曜日は決めている。	◎		△	入浴日を事業所の都合で決めているため、利用者の要望にも応えられるよう臨機応変な対応に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりとスタッフがゆっくりと関われる時間としている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる限り、本人の力で浴槽に入られるように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けのタイミングや介助の人を替えたり、浴室をヒーターで暖めるなどの工夫をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	看護師がバイタルを確認し、入浴の可否を決めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の様子も個々に記録している。				夜間安眠できるよう日中は散歩等の活動を増やすよう工夫する等、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	なるべく日中覚醒しているように支援したり、夜間に眠れるように室内の温度を調整したりして工夫をしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬の使用を検討する前に環境や対応などの要因を探るようにしている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室に自由に戻られるようにしており、和室でも休める環境を作っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	年賀状や暑中見舞いを作って出したり、電話の支援は随時行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状や暑中見舞いを作って出したり、電話の支援は随時行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	耳が遠いこともあり、電話をしたがる利用者はいないが、電話で要件を伝えて欲しいと頼まれれば電話するようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙が届くことがめったにないが、季節の手紙で返事を出すようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	必要のある利用者に対してはそうしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	あまり意識していない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	店がすくないこともあり、そのような機会は日常的にないが、機会をつくろうとはしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	時々そのような働きかけを行っている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	そのようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所のときにお金の所持については本人、家族と話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	そのようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	そのようにしている。	◎		○	急な通院や買い物等、利用者からの要望があれば応えるよう柔軟な支援に努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	◎	テラスは日中ずっと開放しているし、玄関も寒い季節以外は網戸にしている。	◎	◎	◎	玄関周辺には季節の花を植える等、家庭的で落ち着いており、入りやすい 雰囲気がある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	来客者も居心地が良いというが、ときどき整理整頓が不十分である。	◎	○	○	リビングからは海や山を望むことができ最高の眺めである。室内にはソファ があり、ゆっくりくつろぐことができる。掃除が行き届き清潔感があり、季節 に応じた花や飾りつけを行うなど、季節感が感じられるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	環境整備には配慮しているし、空気清浄機も回しているが、独特の臭いはする。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	なるべくそのように工夫している。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	できる限りの工夫はしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	共用空間から見えないように扉を閉めるよう気をつけている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	居室への荷物の持ち込みの制限はなく、それぞれに好きなモノを持ち込んでもらっている。	◎		○	居室には位牌等大切なものを持ち込んでおり、居心地よく過ごせるように なっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	◎	なるべく、自分の力で出来ることをしてもらい、介助しすぎないように配慮している。			○	居室の入口には干支の表札や名前、写真などを貼り付けたり、トイレもわ かりやすく表示する等、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	◎	不便なく生活できるよう、様子を見ながら工夫している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	好きなときに好きなようにできるようにしている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	何度も鍵の施錠については家族や運営推進会議、スタッフ間で協議している。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害について理解し共有しており、玄関は施錠さ れておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	何度も鍵の施錠については家族や運営推進会議、スタッフ間で協議している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	近所、地域に対しても外出については説明しているし、理解も得ているが、安全を配慮して今はユ ニットの入り口に施錠をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	月に一回の全体ミーティングで情報として共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	そのようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	そのようにしている。また連携医は相談して必要があればすぐに往診してくれる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	島という立地条件上、島外への医療機関の受診が常時可能というわけではないが、相談によっては島外の医療機関受診も支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	できる限り、本人、ご家族の希望にそえる形で支援をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	そのようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	地域連携室に情報提供の連絡をするようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	地域連携室に情報提供の連絡をするようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	そのようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職種を限定せず、職員全体で情報を共有するようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	そのような体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	そのようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	特殊な薬については全職員理解しているが、それ以外は薬の目的までは理解していない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	様々な工夫をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	そのようにしている。				重度化した場合の対応方針を入居時に家族に説明し、理解してもらっている。終末期のあり方について、家族や医師等を交え話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	そのようにしている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	そのようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	そのようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	そのようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	△	努力はしているが、十分ではないと感じている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	ミーティングでの注意喚起や定期的な研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作っており、訓練もしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	看護師がしてくれている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に注意している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	そのようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	行事にもよく参加してくれるし、面会にもよく来てくれる。				家族が散歩やレクリエーションに参加できるよう案内している。ほぼ毎日ブログを更新したり、写真入りの「さくら便り」を家族に送付するなど、利用者の様子はもちろんのこと、事業所の運営上のことや職員の人事異動等について報告している。家族の面会時には、必ず声かけし気軽に相談できるような雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	◎	そうしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	◎	散歩やレクと一緒に参加している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	毎日ブログを更新し、月に一度、さくらや便りを送っている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	定期的に家族と話をし、その中で家族が知りたいことや不安については話をするようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	△	そのような支援ができるよう努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	◎	さくらや便りで報告している。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	家族会をしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	出来る限りそうしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	出来る限りそうしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	そのようにしてる。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	△	できる限りそうしているがトラブルにつながったケースがある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	そのようにしてる。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	そうになっている。	/	◎	/	町内会に入会し、あいさつは日常的に交わしている。地域の秋祭りに多肉植物や俳句、折り紙等の作品を出展し毎年恒例となっている等、地域とは深いつながりができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	◎	そうになっている。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	散歩で声をかけてくれたり、ボランティアに来てくれる人が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	◎	そうになっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	できている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	◎	近隣の住民やボランティアがさくらやで行事をしてくれたり、サロンへの参加の支援を手伝ってくれる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	そうできるように努力している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	そうできるように努力している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回利用者家族や地域の方など関わりのある方が参加してくれている。	○	/	○	運営推進会議には利用者や家族、地域の方、町関係者の参加がある。会議では利用者の生活の様子やサービスの実際を報告するほか、評価の取り組み状況等についても報告している。会議での参加者からの意見等は、今後の運営に活かせるよう話し合いサービス向上につなげている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出された意見は迅速に取り入れ、その結果を次回の会議で報告するようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	1か月前にメンバーに連絡し日程調整している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	請求があれば公表できるが、だれでもいつでも見れるようにはしていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	そのようにほとんどの職員が取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	機会があれば伝えるようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	そのようにしている。				代表者は事業所をよく訪れ、職員一人ひとりの事情を把握しており、意見や要望を取り入れてくれるほか、職員が働きやすいようシフトにも配慮する等ストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	その仕組みを作っているところである。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	そのように努力している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	そのように取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	そのように取り組んでいる。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修などを実施して教育している。				不適切なケアを発見した時は管理者に伝え、管理者が対処する等、対応方法や手順等について理解し共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りやミーティングの機会に実施している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士で注意しながらサービスの提供を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	そのように努めている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	研修もしているし、OJTでも教育しているが職員間で理解度の差がある。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	ミーティングや研修で話し合う機会を設けているが充分とはいえない。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族会や運営推進会議では毎回話し合うようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	不十分である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	不十分である。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	不十分である。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	そのようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	そのようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	そのようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	そのようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	十分ではない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	そのようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	そのようにしている。			○	利用者からは日々の生活の中で意向や要望等を汲み取っている。家族からは面会時や電話により意見や要望等を聞き取っている。職員の意見は大切な宝物として捉えて運営に活かす等、管理者は日頃職員から貴重な意見等を聞けており、利用者本位のケアにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	そのようにしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	必要に応じて困り事などを家族からききとるようにしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	そのようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	そのようにしている。			○	

愛媛県グループホームさくらや

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	管理者のみが取り組んでいるが、職員全体におろしていきたいと思っている。				運営推進会議において外部評価の結果や目標達成計画について報告しているが、家族等参加者に具体的にアドバイスをもらい運営に活かしていないため、モニターを依頼できるくらい事業所の取組みを理解してもらえるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	研修や仕組みの改革に活かそうとしているが、まだ不十分である。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	結果が届くまでに時間がかなりあり、結果を踏まえた目標を立てることがうまくできなかった。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	結果が届くまでに時間がかなりあり、結果を踏まえた目標を立てることがうまくできなかった。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	結果が届くまでに時間がかなりあり、結果を踏まえた目標を立てることがうまくできなかった。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	そのようにしている。				運営推進会議の際に、地域の防災訓練にも参加できるよう連携を図り、地域での合同訓練につなげている。消防署職員にも参加してもらい、災害マニュアルを基に避難訓練を実施しアドバイス等もらっている。町の地震訓練等にも参加する等、地域との連携は取れており緊急災害時の協力体制は構築されている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	そのようにしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	西日本豪雨のときに点検をした。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議や地域の防災訓練の際に地域に協力をお願いしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	そのようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	キャラバンメイト養成講座受講。小学校での認知症についての説明、中学生ボランティアでの認知症についての教育やその成果の中学校への報告などを実施している。				地域の相談拠点である事業所の認知症さくらカフェのPRを実施し、地域住民からの相談にも対応している。運動会や秋祭り等地域行事には積極的に参加している。町社会福祉協議会と連携し、介護予防サロンなど地域イベント等も開催している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	週3回の認知症カフェがその役割をしている。		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	週3回の認知症カフェがその役割をしている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	小学校・中学校の職場体験の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	社会福祉協議会や保健センターと連携している。			○	